

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム 太陽と緑 太陽棟		
所在地	北海道旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成29年9月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902306-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方に合わせたケアの実践の為、入居者様の思いに寄り添い、施設・職員の都合ではなく、入居者様に合わせた対応を心掛けています。またご本人・ご家族の希望や要望を叶えられるよう、全職員で情報共有を徹底しています。町内会の行事等も参加するよう努め、施設の行事にも地域の方を招待し、地域の方との交流を大切にしています。協力医療機関の支援を受け、看護師との連携も密であることから、入居者様の体調不良時や急変にも素早く対応でき、安心して生活して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

環状線が近く、旭川医科大学、病院、大型商業施設が立ち並ぶ交通の利便性に優れた地域の一角に開設13年を迎える木造一部2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。地元の小学校の合唱団の慰問を受けたり、町内会の餅つきや焼肉パーティ行事等への参加、古紙回収や地域の清掃事業、アイスキャンドル等への協力、事業所の夏祭りを開催して家族や地域の人々に参加を呼びかけるなど地域との交流や連携、認知症への理解や啓発に取り組んでいる。また、一人ひとりのその日の希望に沿って、神楽岡公園や東神楽まで出かけて桜見物や東川、旭川などの道の駅見学、ラーメンや回転寿司などの外食への支援等で普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるよう支援に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が毎日必ず目にする事務所に理念を提示し、また申し送り等で唱和を行い、日々の実践に繋げている。	事業所独自の理念、ケア理念を作成して、申し送り等で唱和して職員間で共有し、その理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属し、町内会の行事、施設行事を通して、地域の方との交流や連携を行っている。	地元の小学校の合唱団の慰問を受けたり、町内会の餅つきや焼肉パーティ行事等への参加、事業所の夏祭りを開催して家族や地域の人々に参加を呼びかけるなど地域との交流や連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の方に参加して頂く程度の活動しかできていないので、今後もより一層地域の方の役に立つ情報を発信できるようにしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催し、御家族、町内会の方、地域包括支援センターの職員に参加して頂き、状況報告し意見を頂き、サービスの向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催して、災害や防災対策、事業所の取り組み状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から介護高齢課、指導監査課等と密に連絡を取り、助言や指導を頂いている。また社会福祉協議会等が主催する研修などに参加している。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、助言や指導を得ながら協力関係を築けるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症入居者の危険回避の為、玄関の施錠は行っている。身体拘束については、職員間で十分に理解、周知して関わっており、身体拘束する者はいない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、安全に配慮しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、職員間で知識の共有を行っている。また必要に応じ、職員に指導や助言を行い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶことはあるが、現状では理解不足の部分がある。必要時に活用出来るよう、理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明させて頂き、不安点や疑問点については都度十分な説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係作りに努めています。また意見を頂いた際には職員、管理者、施設長で協議し、利用者様、御家族に対応している。	本人・家族、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、そこでの意見や苦情等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング、全体会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。	全体会議やユニット毎の会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員がやりがいを持って働けるよう、勤務環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加の促進、全ての職員が向上心を持って学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会、交流会にも積極的に参加して意見交換を行い、サービスの質を上げるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームで安心して生活して頂けるよう、御本人、御家族から十分にお話を伺っている。また入所後も不安なく生活できるよう、関わる全職員が信頼ある関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や思いを受け止め、信頼して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に聞き取りを行い、多職種とも連携をとり、その方に最適なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、可能なことはご本人に手伝って頂いて役割を持って頂き、常に温かい関係作りを念頭に置いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際は、御本人の近況を報告すると共に、要望や思いを再確認している。全職員が本人、家族、職員間のより良い関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に、御本人が慣れ親しんだ家具や小物、仏壇、趣味で作った作品などを飾り、落ち着いた生活できるような環境作りに努めている。	地域の行事参加や買い物、花見や外出などの外出レクリエーションで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間、レク等を通し、入居者様同士が交流を持てる場の提供をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、今までの生活環境などの情報提供や連携を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、会話や行動を観察し、ミーティングや毎日の申し送り等で情報を共有し、御本人の思いに添った暮らしをして頂けるよう、日々検討している。	日常の会話や職員間の情報の共有で、一人ひとりの意向や希望に沿った支援が出来るように本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、御家族から十分にお話を伺い、入居後もより良い生活をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人介護記録に毎日記録し、申し送り等で全職員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人のより良い暮らしの為に、御本人、家族、介護職員、医師等の意見を聞き、その時々合った介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意向、職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録は、一日の流れが分かるものになっており、関わった職員はこまめに記入し、職員間で情報が共有できるものになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	意見、要望があった時には、ニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等には出来るだけ参加するよう努め、地域社会との繋がりを持ち続け、楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族が希望する病院へ受診対応している。受診が困難な方には、往診可能な医療機関を紹介している。	往診の利用や日常の健康管理、通院等への支援で適切な医療を受けられるようにしている。また、本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携を取り、日々のちょっとした疑問も都度相談している。また急変時には連絡し、支持を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係者との連携を密に行い、また電話連絡や来院して情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から御本人、御家族と話し合いを持ち、各関係機関と連携しながらチーム支援に努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用等、緊急対応について対応出来る職員は研修などの参加を促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で話し合い、地域の方に協力を仰いでいる。また緊急時連絡網を作成している。	緊急時の連絡網の整備や消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。また、AEDの使用方法など緊急時に対応した準備をしている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を守る対応が出来るよう努めているが、全職員で同じような対応が出来ない時もある	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように日常業務や内部研修会の開催をしている。	今後は、職員各々が統一されたケアを行えるよう計画しているので、その実践に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いを何気ない会話から見つけ、自己決定できる声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	施設側や職員の都合で動かずに、その方らしく日々を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度訪問理容が来所し、希望者には散髪、顔そり、パーマ、毛染めを行っている。また季節の変わり目には衣類を入れ替えし、季節に合った身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、配慮している。またレクでお菓子作りを楽しんで頂いたり、食事の下膳をお手伝いして頂いている。	一人ひとりの好みや力を把握しながら、食事の準備や片付け、おやつ作り等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個人記録に都度記入し、1日のトータルを全職員で把握している。また個々の状態に合わせて形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。歯科へ定期受診も対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で排泄をチェックし、本人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導し、極力トイレで排泄して頂けるよう配慮している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排泄を促すために、水分摂取の促し、また医師、看護師に生活上でのアドバイスを頂いたり、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴する際は、体調を考慮し、安全に楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮しています。入浴日は曜日固定となっており、個々にあった支援という面では不十分である。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2回の入浴を目安に柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切に、十分な安眠や休息が取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の管理は施設看護師が行っている。誤薬がないよう確認を怠らず、服薬介助を行う際は、声出し確認してから提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味等を把握し、日々の生活で楽しみを見出せる様支援している。また外出レク等も計画し、気分転換出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望、体調等を考慮し、買い物や散歩に出かけられるよう支援している。夏場は畑で野菜や花を育てている方もいる。またご家族と外出される方もいる。	一人ひとりのその日の希望に沿って、神楽岡公園や東神楽まで出かけて桜見物や東川、旭川などの道の駅見学、ラーメンや回転寿司などの外食への支援等で普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方においては、事務所の金庫にて保管している。また外出時買い物等されたい方については、職員の見守りのもと、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば対応している。本人が自力で困難な方は、職員がサポートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある飾りつけや写真等で楽しんで頂き、天窓で自然光を取り入れる等、明るく居心地の良い空間づくりを心掛けている。	共用空間は、清潔感が漂い、季節毎の飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを置き、ソファでくつろぎながらお喋りをする姿がよく見られる。一人になりたい時は食卓椅子に座ったり、居室で過ごされる等、個々が思い思いの場所で過ごされる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、思い入れがある家具や仏壇等持ってきて頂き、ご自宅にいるような居心地が良い環境を提供出来るよう努めている。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールは手すりを多く設置し、転倒のリスクを極力減らし、自立した生活が出来よう努めている。また個室はその方の身体状況、認知症状を考慮して家具等を配置し、自立した生活を送れるように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム太陽と緑(緑棟)		
所在地	旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成29年8月5日	評価結果市町村受理日	平成29年9月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902306-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間にとらわれず、個々のペースで生活できる環境作りを目指しています。基本的な生活の安心感の中に、日々の中で幸せに感じる時間、楽しく過ごせる時をもってもらえるよう、会話を重視し一緒に過ごせる時間を特に大切にしています。より良い生活環境になるように、本人・家族との意見交換も頻繁に行っています。代表者と職員間も風通し良く、意見交換のしやすい環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて運営理念を復唱し、再確認を行いながら仕事につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(清掃等)にできるだけ参加するようにし、特に古紙回収には貢献することができている。また、夏祭りには地域の方を呼んで、一緒に楽しんでもらうイベントと位置付けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて定期的に利用者の状態を報告。避難訓練や夏祭りに参加してもらう事によって、利用者の実態を見て感じてもらい、質問等にも応じるよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催。地域で抱えている問題や、認知症の方の迷子や介護方法など、一緒に考える時間を共有している。町内会長を中心に、緊急時の対応など地域住民への周知に励んでくれている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った点や疑問点など、積極的に問い合わせで指導いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が日常的に目にする場所に「身体拘束防止に係る規程」を提示している。玄関の施錠に関しては、建物の構造上、オートロックシステムとなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて虐待防止法について学び、施設内でも閲覧できるよう配慮している。今後は施設内研修・ミーティング等にて事例検討を行っていく予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修等で学び、必要な方に説明できるよう知識の習得に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約には十分な説明時間を持ち、質問等も受けながら、理解を深めてもらっている。改定時には文章とともに、直接説明させてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族とゆっくり会話する時間を持ち、家族と信頼関係を築ける環境作りに励んでいる。また、玄関の面会簿横に「ご意見箱」を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを開催し意見や提案をしやすい環境作りをしている。また、月一回の連絡調整会議を行い、各棟からの意見等を代表者へ報告し改善策の話し合いの場としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へは随時、各職員の勤務状況を報告している。職員からの要望等への改革も行っており、意見の通りやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部を問わず研修を奨励している。外部研修後は報告書を提出してもらい、全職員と共有できる環境を作っている。ケア方法などについては、月一回の会議にて随時話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修を通じて、ネットワーク作りを確保。意見交換や各々の問題点など勉強できる良い機会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に、関係機関や本人、家族と十分話し合う時間を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人不在での面談を行うことによって、家族の真の要望等を引き出しやすい環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスも含め、サービス内容の確認を本人、家族と一緒にやっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る仕事を依頼することで、同じ立場で持ちつ持たれつの関係性になるよう心がけている。また、隣に座ってゆっくり過ごせる時間を共有することを重視している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人と一緒に過ごす時間を大切にしてもらったうえで、すべての決定事項を家族と相談して決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を含め、面会に来られた方とは自室にてゆっくり過ごせるようプライバシーの保護にも配慮している。面会に来られた知人に対しても、継続していただける関係性を推奨している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ一同に会せる時間を持つようにして、一緒に体操や歌を歌うなどして、お互いに一体感が生まれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗れる体制作りを約束し、フォローできる環境作りに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む形で生活できるよう、自己決定を促しながら意思の確認ができるような会話を心がけている。意思表示の困難な方には、家族の意向を重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントに加え、入所後も本人や家族との会話の中で知り得た情報を全職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を充実させることによって、その人らしい時間配分を配慮している。出来る日と出来ない日の見極めをしながら、無理のない生活ペースをしてもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、本人、家族からの意見を十分聞き、また医療分野からの意見もいただけるよう配慮して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には詳細まで記録するようにし、朝礼やミーティング時に見直しや検討を随時行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的なマッサージや特別な美容院の訪問など、本人のニーズに合わせて提案している。その都度、本人と家族に相談したうえで決定できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加させていただいたり、家族の協力のもと、住み慣れた家へ外出できる機会を持ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には病院の選択も含め、十分な話し合いをもっている。初受診時には家族に立ち会ってもらい主治医との関係作りを大切にしている。家族の要望、主治医からの指示など、その都度双方へ連絡調整している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異常等は、その都度看護職員に報告相談して、指示を受けられる体制作りをしている。突発的な受診に関しても、看護師の指示を仰ぎ、時には病院へ同行してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添いを行い、今までの生活状況について情報提供している。定期的に病院関係者と連絡を取り、現状や快方の見込みなど情報提供をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族としっかり話し合う機会を設け、今後のケア方法について共通理解できるようにしている。時期を見て同意書をいただき、家族の意見の再確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。全職員が目にしやすい場所に貼っており、定期的に確認を行うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設としての緊急連絡網と、地域の方への連絡網を作成している。地域の方が緊急時にどのように行動すれば良いかをきちんと文章にて作成できている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも礼儀を忘れず、声掛けを行うよう心がけている。自室にいる間やトイレ中には必ず居室のドアを閉め、プライバシーを守れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な意思表示ができる方には、自己決定できる場面を(二者択一など)日常の中に取り入れている。自らの思いが伝えられる人は、受容することで自らの答えが引き出せるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や気分によって、散歩に連れ出したり一緒に作業をするなど、気分転換がはかれるよう配慮している。体調がすぐれない時には臥床時間を長くしたり、自由な時間配分を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え時には気候を配慮して衣類選びを行っている。選択できる利用者には服を選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には一緒にテーブルを囲んで、ゆっくりと会話を楽しみながら食べている。お膳拭きなど片付けは手伝ってもらうこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取できる形態にして提供している。 (お茶が嫌いな人にはスポーツドリンク、減量気味の人には主食8分目など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室にて口腔ケアを行っている。 各々に合わせて歯ブラシ・歯磨き粉・口腔ガーゼを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間それぞれに合わせた排泄介助を行っている。自力排泄ができる方には、できるだけトイレにて介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜摂取にも気を配り、午後からの体操も個々にあったものを取り入れて体を動かす配慮をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な曜日は決めているが、午前午後の入浴時間は、その人の体調に合わせて決めるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外にも、ソファにて寛いでもらう空間を設けたり、自由に休める環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて服薬の説明書を保管し、いつでも情報が見られるようにしている。下剤などは各々その都度確認できるよう、ファイルに重要事項として保管し確認しやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には、みんなで一緒に歌が歌える環境を作り、散歩が好きな人には少しの時間でも外に出られるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望のあった時には、一緒に買い物へ出かけ気分転換をしてもらっている。前に住んでいた家に一時帰宅など、家族に協力してもらい行うことができる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者がいないため、金銭管理は施設にて行っている。本人の購入希望にはその都度応えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には携帯電話の持ち込みは了承している。自分でかけられない方には、職員にて代行してかけて、自室で会話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の二重ドアによって、外から丸見えにならないよう配慮している。温度調節は施設全体と個々でできるようになっている。壁紙には季節の風物詩を飾るようにして季節感を味わってもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集めるスペースと、少し奥まった場所のソファでは、ひっそりゆっくりできる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持ってきてもらい、できるだけ違和感のない空間作りができるようにしている。介護に合わせた居室の模様替えも、本人や家族と相談しながら決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のレベルに合わせて、居室内の配置などを考慮し危険のないようにしている。目で見て確認できるよう、ドアに名前を貼ったり、トイレが分かりやすくなるよう張り紙をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム太陽と緑

作成日: 平成 29 年 8 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	14	研修含め、勉強会や相互訪問等の活動が積極的に出来ていない状況にある。	研修や交流会等、各職員に年2回以上の参加目標を持ってもらい、参加を推奨する。	圏域グループホーム研修や市内で行われる小規模の研修にも積極的に参加する。	1年
2	36	利用者の行動・発言への対応が職員各々となり、統一されていない状況がある。	個々のケアプランに沿った目標に向かって、職員全体で同じケアができるよう統一していく。	認知症に関する理解や個々の生活歴・性格を踏まえた上でのケア方法を考察し、統一見解として周知していき、実行していく。	1年
3	34	急変・事故発生時の対応に対して、実践的な訓練が不十分である。	新旧職員が統一した対応ができる。	当ホームにAEDを設置していて、定期的に講習を行っているが、新しい職員には周知されていないため、早期に講習を実施していく。また、今後も定期的に、AED講習や緊急時の対応の研修を実行していく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。